

(2) 生活様式

1. 生 業

<男性の仕事>

彼らは自分たちの年齢を正確には知らないのであるが、男は12歳ぐらい(我々の見た目では8~10歳)で、ハンターの仲間入りをするそうだ。男性の仕事の大部分はハンティングになるのであるが、それに付随する弓矢の作製、修理がある。その他に、家を建てることや獲物の解体作業も男性の仕事である。ハチの巣をとることも男性の仕事になっていた。

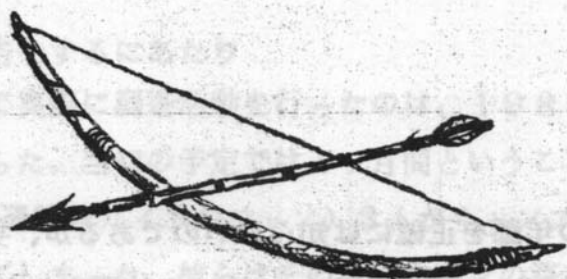
老人は、病気をみたり、ハンティングでトラブルが生じた時に調停や助言をする。

また、若いハンターの為に、弓矢やネットを作ることも老人の大きな仕事である。



<弓を作る老人>

図(右に2つ、Small Spirit Houseが見える。)



弓の長さは 100~130cm

矢の長さは 80cm ぐらい

矢先のメタルは農耕民から手に入れる。

矢先には普通 毒をぬっている。

<女性の仕事>



<薪を運ぶ女性>

バテンボの女性は力持ちでよく働く。一日に2回、たき火用の薪を集める。長さ3m程の丸太なども頭にのせて運ぶ。



<フラワーを作る女性>

彼らの主食となるウガリのもとになるフラワーを作るのも女性の仕事だ。

キャッサバ(イモ)を乾燥させ、それをついて粉状にしたのがフラワーである。ウガリはこのフラワーをお湯の中に入れてこねたもので、日本のモチに似ている。

この他に朝・昼・夕方の3回、川へ水を汲みに行くのも女性の仕事である。

食事は一日3～4回とるのだが、食器は毎食後洗いに行く。食事のための肉を料理したり、ウガリをつくるのも女性が主である。

掃除は一日に何回もやっていた。土の上にワラ(草)かスカイ(動物の毛皮の座蒲団)を敷いただけで生活しているので、掃除をしないと虫が出て来るからだ。また、きれい好きであるからかもしれない。

洗濯に関しては、バテンボの人々は衣服をほとんど持っておらず、週に2回ほど、川で水洗いするらしい。石鹼は非常に高価なもので、水洗いで済ますようだ。

ワラ集めやスカイ作りも女性の仕事である。子供の世話やしつけ、散髪などもやっていたが、裁縫はやっていないようだ。

また、狩猟の手伝いとして、勢子の役をも務める。キャンプの成員の大半が参加するネットハンティングの時に、動物をブッシュから駆りたてるために声を出す役である。

採集も時々やっているようだ。山の中(ブッシュの中)へ野生のキャッサバを採集に行くのである。

老婆や子供の仕事としては、母親の手助けや赤坊の面倒(御守)などをみている。

2 狩 猟 (ハンティング)

<方 法>

1人でハンティングに出かける時と、30人ほどのグループで出かける時とがある。1人でハンティングをする時は弓矢だけを持って行く。ハンティングが目的なわけであるが、その他に動物がいる場所を捜すという偵察的役目も務める。実際に動物の群やそれらの新しい足跡などを発見して戻ってきた時、翌日のハンティングはグループを構成して、ネットハンティングになるわけである。動物がいると考えられるブッシュ(ヤブ)の風下に、200~300メートルに渡ってネットを張り、風上でブッシュに火をつけ、勢子が大声を出し、動物を追い出す。風下のネットの前で待機していたハンター達が、弓矢で追い出された動物を射止めるのである。

しかし、いつも動物が獲れるわけではない。一匹も獲れずに、全員でキャンプに戻ることもあるようだ。現に、我々が参加した時も獲れずに終わった。